

# 「若竹寮の指定管理者制度への移行は慎重に」の声、相次ぐ 「運営内容を確認しながら質を確保していきたい」と副市長



上越市は3日、厚生常任委員会です。現在、市が直営で運営している児童養育施設、若竹寮について、平成29年度から指定管理者制度へ移行する方針であることを表明するとともに、具体化に向けた方針を明らかにしました。

市は説明の中で、いまの直営から指定管理者制度へ移行することによって、①社会福祉法人などの施設運営などのノウハウを活用すること、②長期的な職員配置が可能になる、③専門職員の確保が比較的容易となる、④会計処理がスムーズとなる、⑤人件費や食糧費などの経費の削減が図られる、とのべました。

これに対して各委員からは、「他の施設とは違う特別の施設だ。ほんとにこの形でいいのか」「特別な配慮が必要だ。慎重にしてほしい」など指定管理者制度に移行することに慎重な意見が相次ぎました。

答弁に立った関原副市長は、「養護の質をどう維持していくかがカギだ。施設はあくまで市の施設だ、運営内容を確認しながら質を確保していきたい」とのべていました。

私からも、「指定管理者制度に移行する効果ばかり列挙されているが、直営から移行する場合は、たいがいメリットだけでなく、デメリットも検討している。その点どうなのか」「この問題は建物がある地域協議会だけの問題ではない。他地域協議会の意見も聞く必要はないのか。少なくとも情報提供くらいはすべきではないか」などの質問をしました。

これに対して市側は、「調査の中ではデメリットはないとみています。ただ、懸念材料としては、経費的にみて、サービスの低下が起きないか。途中でやめることが起こりうるのではないかとということがあった」「情報提供が必要かどうかは検討してみたい」と答えました。

## 重症身障者緊急短期入所居室の増設は来年に

独立行政法人さいがた医療センターの改築工事が遅れ、同センターにおいて今年度に予定していた重症身障者の緊急短期入所のベッド増は来年度にずれ込む見込みです。



【メマツヨイグサ】アカバナ科の2年草。漢字で、「雌待宵草」と書きます。北アメリカ原産の帰化植物で、道ばたや荒地などに咲いています。7月に福島へ視察に行った時、津波被害にあった学校の庭にも咲いていました。冬が近い時期にも黄色の花を咲かせていることがあります。花言葉は「無言の恋」。(板倉区光ヶ原高原にて撮影)



【関川の堤防で遊ぶ子どもたち】荒川橋より少し川上へ上がったところで子どもたちの歓声が聞こえてきました。ソリ遊びを楽しんでいたんですね。とても楽しそうでした。(7日)

## 入院も通院も高卒まで医療費助成、10市町村に拡大

新潟県内自治体における子ども医療費助成事業の最新の実施状況がわかりましたので、お知らせします。

それによると、胎内市、十日町市、糸魚川市など10市町村で、入院も通院も高校卒業まで助成しています。「3人以上子どもを有する保護者の場合」に限って高校卒業まで助成しているところも阿賀野市、加茂市など5市村あります。医療費助成は高卒までが流れになってきましたね。ちなみに上越市は、入院も通院も中学校卒業までとなっています。



ある方から似顔絵を描いていただきました。実物よりもだいいい男にしてみました。ありがとうございました。

# はしづめ法一の活動レポート

**No.1687 2014.12.14**  
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
 Tel 025-548-3628 吉川有線 4867  
 通じないときは 090-5392-1961  
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

師走は本格的な掃除や片付けをする人が多いのではないだろうか。私の場合、たいしたこともしないで年を越すことが多いのですが、今年も別です。私の仕事場を移転することに伴い、机の回りや本棚などの整理をどうしてもやらなければならないのです。

議会や選挙戦の合間を縫って、少しずつ整理をしていこうと始めたものの、その少しづつという時間がなかなかとれません。そもそも、整理整頓が苦手な私は、片付け仕事のエンジンがなかなか、かからないのです。

その結果、このままのペースでやっていくと人様に迷惑をかけることが間違いないところまで追い込まれてしまいました。そこで、大雪となった日の夕方、思い切ってまとまった時間をとることにしました。

じつは、きっかけとなったのはテレビです。この日の朝、テレビで上手な片付け方について放映していたのをたまたま見たのです。ちよつと見ただけでしたが、片付けについて詳しい女性の、「宝探し」をやる気持ちでやるのが大事です、という言葉が印象に残りました。そう、おれも本格的にやれば、いままでも失くしたと思っていたものなどいいものを発見できるかも知れない、そう思ったなら、何か吹っ切れたのです。

最初にとりかかったのは膨大な資料です。一度見れば二度と見ることのないもの、大事だと思われるものであっても電子データがあるものなどが山となっています。今後の活動に必要で、今後、簡単には手に入らないものを最優先して残し、あとはほとんど紙ひもでしばっていくことにしました。こうしてしばった資料は二時間ほどの間に五、六個できました。

人間というのはおもしろいもので、自分のやってきた仕事をしつかりと目で確認できると前に進みやすくなる場合があります。山登りで言えば、途中で下界を見て、「ここまで来たのか、じゃあ、もう少し上まで登ってみよう」というあの気分です。紙ひもでしばった資料はさらにどんどん増え、十数個になりました。ここまで来ると、しばったものが増えること自体がなぜかうれしくなります。

片付けを初めて四時間ほど経った頃だったと思います。二枚の原稿用紙のコピーが出てきました。二つとも中身は同じです。四百字詰め原稿用紙に書かれていたのは、「三ころ突」という題名の酒造り唄でした。「御じじ何処きやるこららのや 御主父の代から三代伝わる桐木どりらん 菜っ葉にはぜ飯 御母の分迄てつちり詰め込み 裏の板山へこらやのや 芝刈りに」が一番です。二番も書いてありました。いずれもボールペンで書かれたくせのある文字で、一目で父が書いたものだとわかりました。

原稿用紙に書かれたものは二〇年ほど前に私が父に頼んで書いてもらったものです。長年酒屋者に行くなかで、誰かが歌っていたものを覚えたのでしよう、父は祝いの集まりなどで好んで歌っていました。何度か父が歌うのを聴き、唄の文句はよそでは聴くことができないものだ、これは絶対残しておかなければと思ひ、父に頼みました。ですから、失くしてはならない宝物でした。ところがその後、一度だけどこかで見かけたものの、原稿はずつと行方不明のままなのです。

今回、見つけたものは父が書いた原稿のコピーです。コピーが残っていたということはその原本もどこかにはあるはずですが、片付け仕事はこれからまだしばらく続けなければなりません。宝探しはまだ道半ばです。父の匂いがそのまま残った生の原稿に再び出合うことができるかどうか。

## 増税後、「利益減った」が71%も。深刻な実態浮き彫りに 新潟県商工団体連合会のアンケート調査結果

新潟県商工団体連合会が8月、9月に実施した「消費税8%増税による影響調査アンケート」の結果がこのほどまとまりました。アンケート回

答総数は1301だったと言います。結果を見てやっぱりなと思いましたね。これからのことを考えると、深刻な数値が出ていたからです。

の問いに、「全くできていない」が19%、「ほとんどできていない」は30%です。これらを合わせると約半分にもなります。

### 上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月3日(水)	12月9日(火)
上越南消防署	0.036	0.036
上越北消防署	0.057	0.053
新井消防署	0.050	0.037
頸北消防署	0.053	0.057
頸南消防署	0.047	0.037
東頸消防署	0.050	0.057
高士分遣所	0.043	0.047
名立分遣所	0.047	0.046

「増税前と比べて増税後の売上(4月、5月)はどうなりましたか」という問いに、「減った」と答えられた方は62%でした。売り上げが減った割合は10%~30%が最も多く、43%です。次いで10%未満が33%でした。

「増税前と比べて増税後の利益はどうなりましたか」という問いには、「減った」が71%にもなりました。「増えた」はわずか4%でした。

「増税後は消費税分を価格に転嫁できていますか」

増税に頼らず、大企業や大金持ちに応分の負担をしてもらう、323兆円にもなっている大企業の内部留保の一部を取り崩して労働者の賃上げなどに使うという私たちの提案がますます重要になってきましたね。

